

ななむら

第45号

発行：照来地区公民館

責任者：館長

☎ 92-1738

平成31年2月1日現在

世帯数 536世帯

人口 1,552人

(男728人、女824人)

『照来地区卓球大会』が開催されました！

2月11日（月）健康公園体育館において、第16回照来地区卓球大会が開催されました。

当日は、照来全7集落から16チームが参加し、熱戦が繰り広げられました。

照来区民の親睦を目的に開催していますので、そんなにレベルは高くないと思われるかもしれませんが、かなりハイレベルの選手がいます。レベルの高い選手同士が対戦する試合は、自然と人が集まりラリーが続くと「ウオー、すげえ」「ピンポンじゃない、卓球だ！」といった歓声があがります。

皆さん、一度観に来てください。

結果は、以下のとおりです。

優勝	TNDすまっしゅ
準優勝	TNDちよれい!!
第3位	飯野ハーゲンダッツ
第4位	多子子供会
〈敗者戦〉	
優勝	飯野ホームランバー
準優勝	飯野パナッパ



「鬼の宿」がありました！

節分といえば、どこの家でも「鬼は外、福は内」といって、豆まきをしますが、追い出された鬼を迎え入れて、もてなしている家があるそうです。『鬼の宿』というそうですが、皆さんご存知でしたか？

この話しは、丹土の杉岡富之区長さんから聞きました。

「塩山の『鬼の宿』は誰の家ですか？」と聞かれ、「『鬼の宿』って何ですか？」と聞くと、「節分に鬼をもてなす宿が、丹土にはあり、中辻にも最近まであった。」と言うのです。

さっそく、丹土の人や中辻の人、その他の集落の人にも聞きましたが、誰ひとり知っている人はいませんでした。

いつの時代から行われていたのか定かではありませんが、『鬼の宿』のことを誰も知らないということは、その家の人しか知らないということなのでしょうね。

私は、家の人しか知らない『鬼の宿』が、誰の家なのかこの度知ってしまいました。公表しても良いのでしょうか。

もしかしたら、他の集落でも『鬼の宿』は存在するのかもしれません。あなたの隣の家かもしれませんよ！

ちなみに、全国には一部の地域で『鬼の宿』は残っているようです。

「節分」は4回ある？

「節分」とは、季節の分れる日の意味で、立春、立夏、立秋、立冬の前日の4回を指しましたが、今は一般的に立春の前日のことをいいます。

春は年のはじまりであり、季節の変わり目には邪気が生じるという考えから、鬼払いなどの儀式が行われるのが一般的になっています。

「節分」には、豆まきをしますが、なぜだと思いませんか。

古来より、日本では穀物には「邪気を払う力がある」とされています。

また、豆（まめ）＝魔目（鬼の目）や豆（まめ）＝魔滅（魔物を滅するという意味）の語呂合わせもあり、豆を鬼にぶつけることで邪気を払い、無病息災を願うようになったといわれています。



3月の事業予定

「野菜づくり講座」

- 開始日 3月下旬
 - 場 所 「照来地区公民館」
 - 講 師 J A温泉営農生活センター
宮部正信さん
 - 内 容 野菜づくりの基礎知識
- ※詳細は3月に発行しますチラシをご覧ください。

※「野菜づくり講座」「照来カラオケ同好会」の問い合わせは、下記へお願いします。

- 連絡先:照来地区公民館長 山本清孝
☎ 92-1738

「照来カラオケ同好会」

「照来カラオケ同好会」をつくりたいと思います。
先日、照来にはカラオケが好きな方がたくさんいると聞きました。

カラオケは、健康にも良く認知症の予防にもなると言われています。是非、参加してください。

ただ、カラオケの機器がありません。何を言っているんだと言われても仕方がないのですが、とりあえず、集まっていただき、話し合いをしてはと思っています。

今、考えているのは次のようなことです。

- 会員資格 照来地区内に在住の方（年齢は問いません）
- 練習場所 「照来地区公民館」
- 練習日 会員の話し合いで決定
例：月2回第〇曜日
- 講 師 必要であれば公民館で依頼します。
- 講 師 料 照来地区公民館が負担します。
ただし、年12回分程度
- 会 費 会員の話し合いで決定
- 経 費 講師料と消耗品的なものは、公民館が負担します。
- 発表の場 発表会を年1回程度及び福祉施設を訪問等。



照来の歴史⑥ 桐岡 「赤坂峠の地蔵さん」「宴の清水」

『赤坂峠の地蔵さん』

桐岡赤坂峠を少し下った場所（現照来小学校の入口から少し下ったあたり）に一体だけある。

子を亡くした人が供養のため毎年おまいりをする。と同時に今育つ子たちの安全を祈っている。よだれかけやぼたもち、だんご、花などを供える。

（昭和47年に温泉町教育研修所が発刊した「村の小さな神仏」より）

『宴（えん）の清水』

宴の清水ちゅうのはな、あの城山っていう、いま煙突が立っるとる向こうに大きな山があらあが。（現在、煙突はありません。）



あれがなんですがな、歌長の「浅野公」っていう旗本が
あって、あそこには、天守が立ってたもんです。

山の段がついとった所にですだ、その天守に使う水は、
宴の清水からひいておったと言うのが伝説ですだ。

昔、赤坂峠の道がなかったとき、山を越えて湯村に出る
のに、その宴の清水が一つの休み場となっった。

なんでも、湯村に出ても山に行っても、あそこの清水を
飲みよったけえ、宴の清水っていいますだ。

（「但馬・温泉町の民話と伝説」より）